

平成29年度 病害虫発生予報 第1号

平成29年4月21日
栃木県農業環境指導センター

○天候の変化に注意し、野菜類病害の発生増加を防ぎましょう！

予想期間 4月下旬～5月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比91.3%：ほ場率、平年比83.3%：株率）。(±)
・向こう1か月の降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。(±～-)
- (3) 対 策 ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温湿度管理やかん水を行う。
・発生が見られる場合はトリフミン水和剤やフルピカフロアブル等を散布する。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比102.4%：ほ場率、平年比74.3%：株率）。(±)
・向こう1か月の日照時間は平年並または多い見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ハダニ類は下葉の裏にすることが多いので、下葉かきを行い、薬剤が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。
・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤を活用する。
・気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。また、殺卵効果のある薬剤と組み合わせてもよい。
- (4) 備 考 ・気門封鎖剤は葉・果実の傷みを生じやすいので、乾きにくい雨天日等での使用を避ける。
[薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ（HP）に掲載中。

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比87.5%：ほ場率、平年比118.4%：花率）。(±)
・向こう1か月の日照時間は平年並または多い見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・発生が見られたら、低密度のうちにIGR剤で増殖を防止する。
・花を観察して、その1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなる恐れがあるため、スピノエース顆粒水和剤かディアナSCを散布する。
- (4) 備 考 ・スピノエース顆粒水和剤やディアナSCは、天敵やミツバチへの影響があるので注意する。
・[H28年度植物防疫ニュース\(速報No.17\)](#)、[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない（平年比24.0%：ほ場率）。(-)
・向こう1か月の降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。(±～-)
- (3) 対 策 ・当センターの予察調査において、一部ほ場で茎での発病が認められる。(+)
・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
・咲き終わった花卉や発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
・防除は予防を主体に、アフエットフロアブルやピクシオDF等を散布する。

(4) 備考 ・ [薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

5 きく ハダニ類

(1) 発生予想 発生量： **やや多い**

(2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(平年比120.3%：ほ場率、平年比189.6%：株率)。(+)
・ 向こう1か月の日照時間は平年並または多い見込み。(±～+)

(3) 対 策 ・ 薬剤がかかりやすい生育初期からの防除を行う。
・ 葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に薬剤を散布する。
・ 化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤を活用する。

(4) 備考 ・ [薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

6 その他の病害虫

		現 況	発生予想			現 況	発生予想
いちご	灰色かび病	やや少	やや少	きゅうり	べと病	多	多
	アブラムシ類	平年並	やや多		うどんこ病	平年並	平年並
トマト	葉かび病	平年並	平年並	たまねぎ	アザミウマ類	やや少	平年並
	コナジラミ類	やや少	平年並		べと病	平年並	平年並

春の病害虫防除対策

○麦類 赤かび病

・ 出穂や開花状況をよく観察して、適期に赤かび病防除を行いましょう。

[植物防疫ニュース\(速報No.1\)](#)を当センターHPに掲載中。

○いちご親株床

・ いちごの収穫作業や水稲作業等が重なる繁忙期ですが、親株床での病害虫発生にも注意しましょう。また、本ぼと親株床の管理作業を分け、本ぼからの病害虫の持ち込みを避けましょう。

○トマト コナジラミ類、キュウリ アザミウマ類

・ 気温の上昇に伴い、施設内で越冬したコナジラミ類やアザミウマ類が急増するおそれがあります。コナジラミ類やアザミウマ類を野外に出さないよう、防除を徹底しましょう。特に、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病を媒介するため、注意が必要です。

○なし 黒星病

・ 一次伝染時期となるりん片脱落期から開花期は最重要防除時期です。果そう基部病斑(芽基部病斑)の摘み取りを徹底し、2分咲きから落花直後に治療効果があるDMI剤を散布しましょう。また、開花期から展葉初期に降雨が多く、開花から2週間以内に黒星病の発生が散見される場合は、多発の危険がありますので注意しましょう。

○農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう！

○短期暴露評価の導入に伴う農薬の使用方法の変更に注意しましょう！

1か月気象予報(予報期間4月22日から5月21日 4月20日気象庁発表)

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は平年並の確率40%です。

	低い(少ない)確率	平年並の確率	高い(多い)確率
○気温	40%	30%	30%
○降水量	40%	40%	20%
○日照時間	20%	40%	40%

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ(<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>)でもご覧になれます。